

(6) 教育課程と授業後収

各校とも授業時数の確保に努力をしている。しかし県の承認をうけた教育課程計画表と実施時数は一致するよう努力すべきである。

(7) 学習指導

能力別学級編成校においては、それぞれの特色ある教科と授業の組み合わせにくふうをし、進学組が予備校化しないように、また就職組が劣等感をもたないよう極力注意、くふうしなければならない。

学習指導法は小・中学校に比較して劣っている。教壇で教師のみが独走している教室が多くみられた。また、教具の活用についてのくふうが不足であるし、一般に板書が粗末である。

生徒の学力と教科書の取扱いにはじゅうぶん留意し、さらに教育課程との関係を検討できるような余力がほしい。少数の女子を収容している男子を主体とする学校のうちに、家庭科の施設設備の不備から家庭科授業を軽視する傾向があるようにみられた学校もある。女子生徒の家庭科教育の重要性を認識し早急に設備が充実されるよう学校長に要望したい。

(8) 生活指導

生活指導の面で問題になる生徒は進学とも就職とも決定しない心のうつろな生徒に事故がおこっていることが生活指導の記録に散見する。教科の指導は勿論大切であるが、特に教育活動に対する教育的な価値の判断と指導の実践性が教師に不足しているところから生ずるようにもみられる。

また、予備校化するおそれのある進学を主とする普通高校において人間形成の場となり時となる特別教育活動を軽視することは砂上樓閣にも似た人間教育である。

しかし、低调であるとされている高校の特別教育活動のうちにふくまれる生徒会の動向には、特に注意をすべきである。政治や思想の研究は自由であるが、学校内の生徒の個々の研究活動が、自主性や自発性を助長させるのを目的とする生徒会が教師や先導格の一部生徒のために誤った指導となつて学校外の政治活動と結び付けられないように学校長は関係教員とともに注意しなければならない問題である。

10 教科書の管理運営

A 教科書採択研究事業

a 研究の目的

この研究事業は、教科書センター設置以来実施されたものであり、各教科書センターにおいて、それぞれの地域で使用するのに適した教科書を実際に選択する観点から、選定採択の対象となるすべての教科書について、綿密周到な共同の比較研究を行い、その成果を教科書センターに備えつけるなどにより、その地域における教科書の選択の参考資料とするものである。

b 研究の対象

本年度の教科書研究は、明年度より実施される小学校教育課程改訂にともない小学校教科書が全面的に新版となつたため、小学校用教科書について研究することとなった。中学校教科書については36年度の研究となる予定である。本年度研究対象となる教科書と発行点数はつぎのとおりである。

国語	11種	138点
書写	硬筆 11	84
	毛筆 14	42
社会	7	59
地図	8	79
算数	11	123
理科	10	79
音楽	10	60
図工	9	54
家庭	10	19
計	101	666

なお中学校教科書は改訂、新版はなく昨年と同様である。

研究については、各センターに4~5種類、つぎのとおり依頼した。

センター名	研究種目
福島	社会 地図 図工 理科
保原	算数 音楽 社会 地図
二本松	算数 国語 書写 音楽
郡山	理科 国語 書写 図工
須賀川	社会 地図 算数 理科
白河	理科 社会 地図 音楽
石川	理科 国語 書写 図工
三春	社会 地図 算数 理科
田島	国語 書写 社会 地図 音楽
会津若松	社会 家庭 理科 音楽
喜多方	国語 書写 算数 図工
会津坂下	理科 算数 音楽 家庭
平	書写 算数 図工 国語
富岡	国語 書写 音楽 算数
相馬	理科 社会 家庭 図工

c 研究の角度

研究参加者は、当該教科書センターを中心とする出張所の指導によって算内小学校教員が各種目ごと5名とした。

d 研究の進め方

各出張所の指導により、当該教科書センターごとに定めたが、本年度は5月はじめから7月末日までとし、採択の資料として利用するようにすすめた。

e 研究結果の処理

研究結果は各種目ごとそれぞれ400字詰め原稿用紙20枚程度の報告書にまとめ、各管内各小学校に配付するとともに、県教委に5部提出し、そのうち各教科3種類を2部ずつ文部省に送付した。

本年度は各センター間の研究物の支換は行わなかつた。